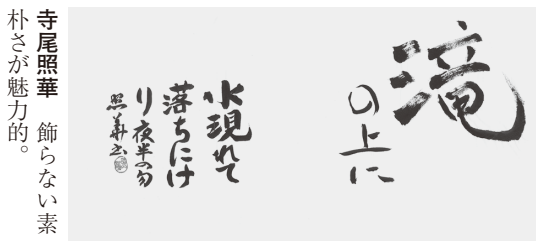


- 出品資格：一般および高校生。●用紙サイズ：A課題は半切縦か角半。B課題は半切1/2、縦横自由。
- A・B課題は同時出品可能。同時出品の場合は出品券の下部にA・Bを明記すること。
- 条幅出品券を作品の右下に必ず貼付すること。（作品の裏右下には鉛筆で段位と氏名も忘れず記入）

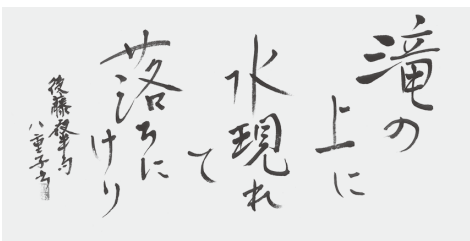
〈B課題の部〉



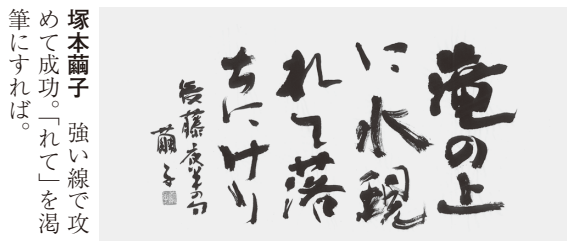
寺尾照華 飾らない素朴さが魅力的。



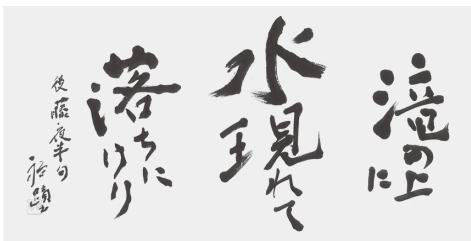
津田真千子 淡墨で演出効果を高めたか。



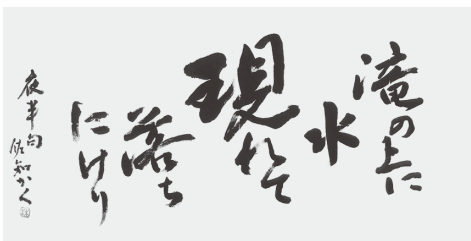
橋本八重子 淡々として清々しい。



塚本蘭子 強い線で攻めて成功。「れて」を渴筆にすれば。

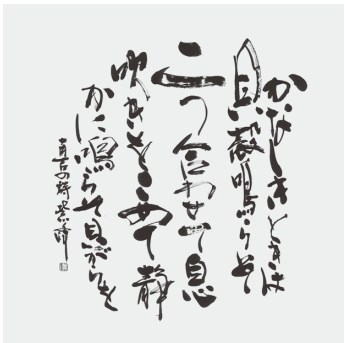


山鹿裕蹟 左右の空間を牛耳る「水」が最高。

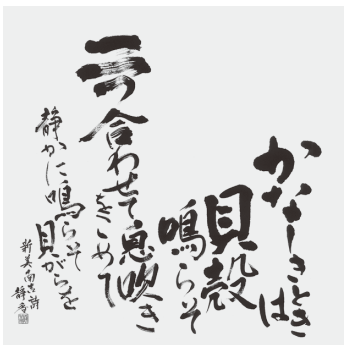


林佐知子 墨量たっぷりです元気な作。

〈A課題の部〉



上田紫峰 潤と渴の変化が巧みで筆の動きが読み取れる秀作。



永田静香 絵画的な構成が魅力的。

優秀作品

現代書部 次号課題

A 枯草に寝て思ふまま息をせり

秋空高く山紅かりき

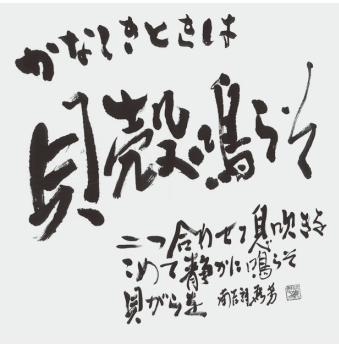
B 狼星をうかがふ菊のあるじかな

(中原中也 歌)

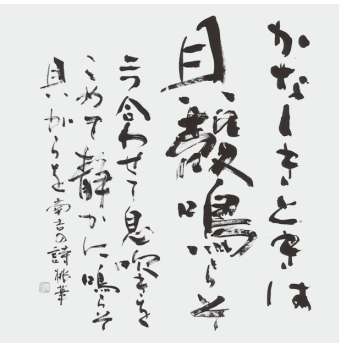
(宮沢賢治 句)

夏の展覧会シーズンが終わり、朝ドラの最終回に涙したのもつかの間。水明セミナーに昇格昇段検定試験に師範準師範検定試験、次の展覧会にむけての作品づくりと学びの秋が始まりました。

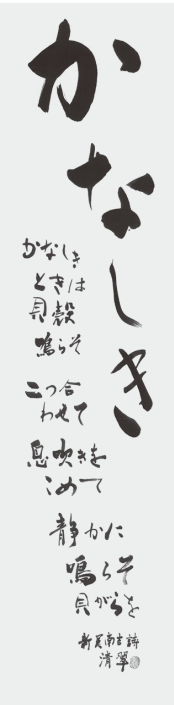
以前、ある書家の講演で「まず心を豊かにし、今ある技法でプラスのことを考えて書くこと。自らが心を弾ませて筆を進めていかなければよい作品は生まれない」と聞いたことがあります。水明誌には、漢字・かな・現代書・篆刻などの研究部にも課題があり、だれかの詩歌や言葉を借りて作品として表現しなければなりません。「心を弾ませる何かを見つける訓練」として毎月、課題に取り組んでみるのはいかがでしょう。ただし、どんな時にも『書道字典』での文字確認は忘れなく。



濱田麗芳 大胆で動勢あり。小書きにも変化がほしい。



井上桃華 直線と曲線を巧みに組み合わせた作。



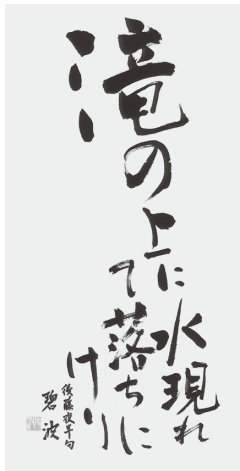
今井清翠 伸びやかでリズムあり。小書きに文字の大小がほしい。



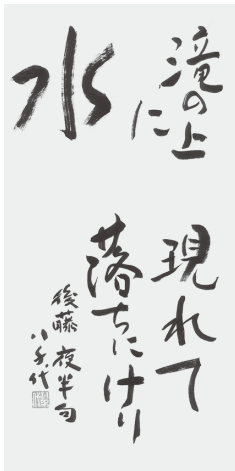
西川卓義 後半の盛り上がりが成功。



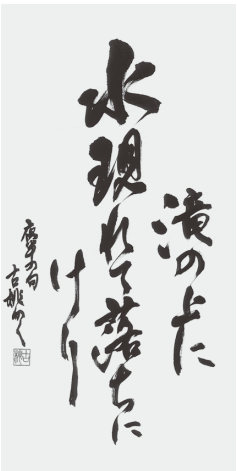
吉田純真 運腕が大きく包容力のある作。



高田碧波 まさに滝が落ちてくるような構成。



富塚八千代 大らかな作。「水」が少し大きいか。



岩崎古桃 重厚な調和体。